

◆ 新技術定着試験

養殖モズク培養種の分離、拡大技術の普及

水産海洋技術センター 牧野清人

1. 目的

沖縄県における養殖モズクの生産量は年間で10,000t～20,000tの間で推移しているが、母藻の確保や天候不良等の環境的要因により、安定的な生産が出来ない状況にある。養殖モズクの安定生産のためには天然母藻による種付けに加え、培養種を使用した人工採苗技術の定着が必要であるが、現在のところこの技術が十分に普及していない。そこで、本島中南部地区オキナワモズク養殖業者を対象として、オキナワモズクの種保存及び培養技術についてセンター内およびオキナワモズクの産地において指導を行った。

2. 内容

水産海洋技術センター須藤主任研究員の協力の下、勝連漁協浜地区のモズク養殖業者5名に対し、同センター内において座学講習ならびに寒天培地作りおよび種の保存について実技講習を行った。また、久米島町を訪問し、養殖業者6名に対して同様に指導を行った。座学講習は、培養種を確保することの必要性、母藻からの種採集、寒天培地への保存、液体培地の拡大方法といった内容であった。実技講習は寒天培地作製の他、液体培地の種を寒天に移す方法、雑藻やバクテリアからの分離について説明し、培養室を見せながら拡大培養の方法についても説明した。

培養種による種付けを行っている座間味村の養殖業者2名に対し、種保存、拡大培養に関して助言した他、モズク網に結束したビニルシートに培養種を付け、沖出しして母藻として養成する方法について指導した。現地においては培養施設における種付けならびにビニルシート上

での育成状況までの顕微鏡観察による確認を行った。今回は沖出し後の現場確認が出来なかったが、養殖業者によると、沖合で育成した培養母藻シートを使い種付けしたところ、芽出し及び生育は良好であり、養殖、収穫まで順調に行うことができたとのことであった。この技術については再現性の確認も含め、次年度以降も現場において引き続き指導したい。



勝連浜地区養殖業者に対する座学講習



寒天培地の作製についての指導



液体培地から寒天培地への種移植
についての指導



ビニルシートへの種付け (座間味村)



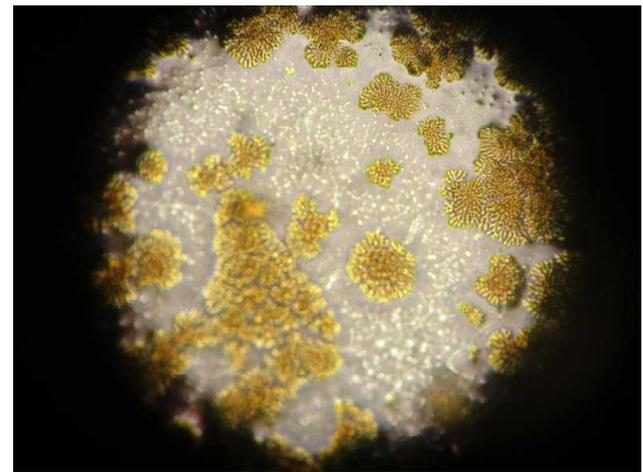
培養種について、顕微鏡観察しながらの指導
(久米島町)



種付けしたビニルシート



養殖業者に対する指導 (座間味村)



ビニルシート上のモズク盤状体 (顕微鏡写真)